

令和6年度 かねやま福祉会事業報告

《基本的理念》

社会福祉法人『かねやま福祉会』は、高齢者が住みなれた地域で安心し、心豊かにいつまでも暮らしていただけるよう各種事業を通して、地域社会の福祉の推進、発展に寄与します。このため、ご利用者はもちろんご家族や地域のみなさん、そしてここで働く全ての職員がいつも笑顔でいられるよう、提供するサービス全般において改善を重ね、日々向上することで、信頼される存在となることを目指して歩んでまいります。

《事業方針》

各事業の経営目標を達成し、安定した基盤の構築を図りながら、地域包括ケアを踏まえ、行政、地域住民、関係機関とさらに連携し共生社会の実現に向けて様々な取り組みを継続する。また、介護を含めた各種サービスの提供において、ご利用者等の「個人の尊厳」を深く認識し、その重要性のもと改めて職員一人一人が基本に立ち返り、対応していくことを事業方針とする。

【経営・運営】

各事業所において、目標の稼働率達成と在庫管理の徹底、経費の削減を通して、各事業所及び法人全体の安定経営を目指す。

事業所名	目 標
特養	<ul style="list-style-type: none"> ① 稼働率 1日平均77.5人(稼働率96.9%)以上を目指す ② 入退所にとまなう空床日数の減 ③ 入院者の減、入院日数の減による稼働率の向上 ④ 看護・介護・栄養など多職種が連携し、情報の共有を的確に図りながら、特に個々の入所者の食事摂取状況の観察、口腔ケアの対応に力を入れ、入所者の良好な健康状態を少しでも維持するとともに、不調時の際に速やかで適正な対応が取れるよう相互協力の徹底に努める ⑤ 食材料費、光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続 ⑥ 収入における人件費率を常に考慮しながら、その中での職員体制の確保と働きやすい職場環境を目指す
短期入所	<ul style="list-style-type: none"> ① 稼働率 1日平均19.0人(稼働率95.0%)以上を目指す ② 食材料費、光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続 ③ 担当部署間のタイムリーな連絡及び情報の共有と居室調整の徹底による稼働率の維持、向上 ④ 柔軟な対応と緊急時の受け入れによる稼働率の維持、向上
かねデイ	<ul style="list-style-type: none"> ① 稼働率 1日平均17.0人/20人(稼働率85.0%)以上を目指す ② 積極的な振替利用の受入れや、急な利用日の変更にも迅速に対応し利用率を上げる。ケアマネとの信頼関係の構築により、営業を強化することで、実績を確保する ③ 食材料費、光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続 ④ 訓練プログラムを工夫し、利用者の要望に添った、魅力あるデイサービスを目指す

よこデイ	<ul style="list-style-type: none"> ① 稼働率 8.0/10 人（稼働率80%）以上を目指す ② 関連機関への積極的な働きかけによる新規利用者の開拓 ③ 訓練プログラムの工夫で、利用満足度の向上による利用者の増 ④ 食材料費、光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続 ⑤ 職員、準職員、パート職員との連携と業務役割分担と業務量の見直しの継続
居宅	<ul style="list-style-type: none"> ① 要介護者計画作成数85件/月以上を目指す ② 計画的で遅延なき事務処理の実施と的確な請求データの完成 ③ 利用者、家族状況の適切な把握をもとに、利用者や家族の意向を優先しすぎず、専門家としての知識・経験によるアドバイスを踏まえたサービス計画の作成 ④ 光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続
包括	<ul style="list-style-type: none"> ① 総合事業、介護予防計画作成数40件/月 ② 関係機関との更なる協力、連携を通じて、金山町における包括ケアシステムの浸透、構築目指し、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう利用者及び家族を支援していく <ul style="list-style-type: none"> (1) 認知症対策 <p>中心的立場で積極的に取り組み、早期発見、早期対応を目標に認知症関連の各事業や会議等を通して適切な「医療・介護・福祉サービス」へとつなげていく。また、認知症に関する正しい知識の啓発により、認知症への社会の理解を深める</p> (2) 地域ケア会議 <p>ケア会議の中で取り上げられる個別のケースの背後に潜在する地域課題を明らかにし、関係機関と協力しながら取り組むことで地域作りにつなげていく</p> (3) 在宅医療・介護との連携 <p>地域の医療機関や各介護事業所の状況を把握し、それらを的確に組み合わせ補完することで住み慣れた地域で可能な限り暮らし続けることができるよう取り組んでいく</p> (4) 介護予防 <p>多くの住民が介護を必要とせず、日常の生活を送れるよう各種事業や啓発活動を通して健康な状態を維持、継続できるよう取り組む</p> (5) 総合相談支援 <p>高齢者やその家族からの相談を総合的に受け付け、状況を把握しながら、関係機関と連絡を密にし、その解決を図る</p> (6) 権利擁護業務 <p>高齢者に係る様々な権利侵害から高齢者の尊厳を保持し、安心していきいきとした暮らしが続けられるように、中核機関と連携、相談をしながら対応、支援していく</p> ③ 光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続

【経営】

介護報酬の改正を踏まえ、各種加算算定など適正な収入を確保する。各事業所ごとの目標を達成するために、利用実績増加に向けた取り組みを強化する。

また、特別養護老人ホームの増床後、10年が経過したことから、今後を見通した職員体制づくりに取り組む。

各事業所とも当初の目標の達成と安定した経営基盤の構築を目指して事業に取り組んだ。今年度はひだまり・こもれび棟改修工事として7,150千円の支出があった。エアコンの交換工事に3,289千円の支出があったが、補助金800千円が該当し、少しではあるが支出を抑えることができた。また、新型コロナの感染や濃厚接触者への対応のため、感染予防の消耗品の購入や、機械設備の不具合による修理代、非常通報装置の故障など、予定外の支出も多く見られた。冬期間の大雪や値上げの影響を受け、灯油代が増加したが、電気代は、施設内の電球をLEDに変えたことで、最小限の支出で抑えられた。また、ネパールからの特定技能1号生3名の退職があり、急遽新たな特定技能1号生の採用に係る紹介料も発生している。

各事業の収支状況は施設の稼働率が97.82%（78.25/80人：前年96.62% 前年比100.95%）となり、目標の96.9%を達成し、収支差額を黒字とすることができた。入所者の高齢化や重度化等により入院者数や入院日数が増加傾向にあるが、令和5年度より稼働率を上げることができた。

短期は、94.20%（18.84/20人：前年96.15% 前年比97.73%）と直近5年間では稼働率が一番少低く、目標の95.0%には届かず収支差額も赤字となった。4月・8月に新型コロナが施設内で発生した影響で利用率が下がったことが影響した。

かねやまホームデイサービスでは、稼働率77.4%（15.48/20人：前年81.1% 前年比94.89%）と目標の85.0%には届かず、年々利用率が下がっている。8月の、新型コロナ感染による、営業縮小や、冬期間の大雪による利用控えが影響している。また、収支の面でも、年度初めに送迎車両が故障し、新しいワゴン車の購入4,217千円があり、赤字の収支となっている。

よこたデイサービスでは、稼働率79.8%（7.98/10人：前年73.4% 前年比108.26%）と昨年度から稼働率を上げることができた。目標の80.0%には届かなかったが、町から指定管理料を頂いて若干の黒字となった。新規のご利用者の開拓で、冬期間の落ち込みを最小限にすることができた。

居宅介護支援事業所は、月78.6件（前年82.8件95.06%）で目標の80件を上回ることはできなかったが、何とか黒字を確保することができた。町内の高齢者が減少していることもあり、年々サービス計画作成件数は減少している。

包括での計画作成件数は月42.3件（前年35.9件117.63%）で、昨年よりは増加している。各地域へ出向いて、主たる業務である認知症対策、ケア会議の実施、介護予防、総合相談支援などにおいては、関係機関との連携のもとその活動が住民に浸透し、成果となって表れているケースも出てきている。また、地域リハビリ支援事業は、専門職からの自立に向けた指導、助言により、運動機能の向上につながることもできた。

次年度も電気代の値上げや物価高騰が考えられることから、節電や納入業者の再選定、代替品の発掘などによる一層の経費削減に努めていかなければならない。

【ご利用者の人権の尊重】

昨年度実施した、全事業所での満足度調査の結果を踏まえ、ご利用者を尊重する風土がしっかり定着するよう、接遇向上委員会を中心に改善すべき項目について取り組む。

また、高齢者虐待は、高齢者の尊厳を失わせる重大な問題であり、決してあってはならないことであるため、入所者の尊厳を守ることを徹底する。些細なことが積み重なって大きな影響を与えることもあるため、職員がチームで対応することで、お互いの対応の仕方を検証しながら、取り組んで行く。

また、公正・中立な第三者機関による第三者評価を取り入れる準備段階として、自己点検を継続し、職員が施設の現状を同じ認識で把握できるように取り組む。

高齢者が健康で生きがいを持って暮らせる活力ある明るい長寿社会の実現に貢献できるよう、各事業所とも人権の尊重を常に意識しながら、日々の業務に取り組み、接遇委員会の活動や各会議等で指導しながら全職員の理解を深めるよう努めた。

今年度、事業所に寄せられた苦情、意見要望などは全体で21件であった。職員個々の対応に対するご意見もあり、改めて考えさせられる貴重な機会となった。ご要望を全体で共有し、改善を図っていききたい。

【新型コロナウイルス感染防止策の徹底】

新型コロナウイルスの法的位置付けが第5類となっても、施設の対応は大きく変わることはなかった。法人独自の「コロナ感染防止マニュアル」を随時見直しながら、的確でスピーディな情報共有と職員個々および組織としての適正な対応を行い、感染者の発生や拡大を防止していく。

また、インフルエンザ等の感染症も身近で発生しているため、今まで以上に施設職員としての高い意識と判断力を持ち、入所者や職員の健康の保持と安定した法人の運営を目指す。

新型コロナだけでなく、インフルエンザやノロウイルスなど、年間通して感染症と背中合わせの状況だった。常に職員の意識を高くもち、ルールに基づいた感染対策を継続した。新型コロナは施設内での感染が数回あったが、回数を重ねるごとに職員の対応もスムーズになり、感染者も最小限で抑えることができるようになってきた。今年度は、初めてデイサービスでの感染があり、数日間事業の縮小を図ったことで、ご利用者にも多大なるご迷惑をかける結果となった。

【安全】

- (1) 予見可能な介護事故等の防止
- (2) 事故の中でも、最も件数の多い、転倒事故を減らす
- (3) 転倒事故後の状態観察と的確な判断および家族側に立った容態の適時連絡
- (4) 感染症予防のための職員の健康管理の徹底と発症時の的確な対応
- (5) 送迎、受診、通勤等における安全運転と事故の防止
- (6) 防災・感染対策としては、ご利用者や職員の安全を確保するとともに、事業を継続するためのBCP（事業継続計画）を活用して行く。

今年度の事故は126件と昨年度より48件減少している。昨年度多かったご自身の行動中の事故が昨年度より34件減少し、職員の対応意識が高くなってきていると感じる。しかし、骨折等の大きな事故が、3件増えており、職員の介助中の事故も減らない状況にある。転倒事故の軽減については「転倒要因チェックシート」の有効活用と居室内環境整備の徹底により、個々の対応を重視し取り組んだ結果、昨年より減少し、骨折リスクの高いご利用者には、プロテクターパンツを着用していただくなどの対応を継続した。また、以前からの課題だった与薬関係の事故は減りつつあり改善の成果が現れてきている。

また、事故後の状況の確認や家族への連絡の説明内容は適正に行うことができつつあると感じられ、全体としてリスクに関する意識の向上が伺えた。必ず、個々の事例を検証し、今後に生かしていきたい。

新型コロナ以外の感染症は、施設内での大きな感染はなかったが、地域でのインフルエンザやノロウイルスの感染が聞かれ、対応を強化した。

県の指導により、業務継続計画（BCP）の研修会も2回実施し、訓練にも結び付けることができた。

【委員会活動の活発化】

選出された各部署からの委員が目的を踏まえ、自覚と責任をもって積極的に委員会活動に取り組む。また、新たに決められた項目などをまず委員がよく理解し、率先して実践しながら、情報や決定事項を繰り返し部署内に伝え、浸透させることで委員会の活動をより有意義なものとする。

各委員会での決定事項を、スムーズに実践できるよう、経験者を委員として配置しながら、体制づくりに努めた。成果が見られる委員会もあるが、まだまだ意識の薄い委員会もあるのが現状である。委員の意識の差が顕著に表れており、他人事の対応となっている職員の改革が課題となっている。

委員会活動は入所者やご利用者の日々の穏やかで安心な生活や健康管理にも大変重要な意味を持っており、委員としての責任感を自覚しながら決定事項等を当該部署へ速やかに、繰り返し伝え、浸透されるよう今後も取り組んでいく必要を感じている。

【人員体制の確保と職員成長のための人材育成】

収入に係る人件費の比率、年齢構成、育休者、新しい特定技能1号生等の来訪を考慮しながら、各事業所・各部署の安定した人員体制を確保する。

(1) 特定技能1号生や技能実習生の定着

現在、勤務してる5名の外国人労働者の勤務が軌道に乗ってきていることから、今後とも、一定人数の外国人労働者を確保するため、早めの対応を継続していく。

(2) 業務改善の継続

入所者・ご利用者の高齢化、質的・量的なニーズの多様化等により、業務にかかる時間が増大化しており、それらの業務を限られた人員で対応していくには、定期的に業務の見直しが不可欠であることから、これまでの慣例ややり方にとらわれず、各事業所、各部署で業務量の削減に継続して取り組んでいく。全体の職員配置や、勤務時間の見直しを行い、効率的な業務の流れを作る。

また、光熱水費・燃料費、消耗品等の高騰により収支状況が厳しい中、少しでも経費を削減できるよう、工夫して取り組んでいく。

(3) 人材の育成

職員の希望する研修の受講、外部講師による専門的な研修会の実施など、職種別、階層別の教育体系を通して、個々のキャリアアップと成長が実感できる職場を作っていく。

前年度同様オンライン研修を中心に、状況を見ながら外部講師による専門的な研修を取り入れ、多くの職員が受講できる環境を作り、知識と技術を高めていく。

(4) 長く勤務してもらえよう体制、環境の充実

職員ひとりひとりのライフスタイルに合わせ、多様な雇用形態・勤務時間に柔軟に対応しながら、安心して長く働くことのできる職場環境を目指す。

ネパールからの特定技能1号生3名の急な退職により、急遽インドネシアから4名の特定技能1号生を受け入れた。インドネシアの日本語学校で、日本語の勉強をしてからの来日となるため、就業当初から日常会話は問題なく、業務にも一生懸命取り組んでいる。9月に来日した2名は、夜勤業務もできるようになり、順調に成長していると感じる。また、2月に来日した2名についても、落ち着いて業務に取り組み、一定の成果が得られた。これまでの経験をもとに生活、業務の両面において良好なバックアップができていますので、今後も継続していく。

また、限られた人員の中で、一定の成果を上げるために、時間の使い方の意識付けを繰り返し行った。長期にわたって、毎年この目標を掲げ各事業所、各部署それぞれが現状を踏まえ、慣例にとらわれず定例会などを通して業務の改善を行った。

新型コロナ感染の状況を考慮し今年度も、オンラインによる研修を主体に、補助制度を有効に利用しながら、職員のレベルアップとその育成に努めた。職員が希望する研修や法人として受けてほしい研修など職種別、階層別に多岐にわたる受講となった。介護支援専門員の更新研修も、該当する職員に積極的に受講させ、今後を見通した体制づくりを行った。各部署が定例会での参加者全員による研修の受講は定着してきて、意識の高さを感じた。

「介護技術」については昨年度に引き続き、感染対策を徹底して外部講師による研修を年に4回開催した。移動介助や入浴介助の技術のみでなく、拘縮予防の対応など、重度化したご利用者の身体レベルに合わせて、取り入れることができた。

人材の育成は法人の大きな柱のひとつであり、今後も継続して実施していきたい。

今年度も職員の時短勤務や冬期間の通勤時間などを考慮した勤務など、個々の事情に配慮しながらの対応を継続した。夜勤勤務が難しくても常勤での採用につなげ、退職者の補充の対応を行った。

時間外の年間集計では例年並みの全体平均で1ヶ月2.28時間であった。有休消化に関してはリフレッシュ休暇を含め平均10.73日と若干消化率は増加しているものの、偏った職員の取得が見られ、少ない職員の取得率をアップさせるのが、今後の課題でもある。

また、労務管理が複雑化しており、顧問契約をしている社会保険労務士に確認しながら、個々の対応に取り組んだ。

【地域貢献】

(1) 地域住民への車両貸出し事業の継続

(2) グラウンドゴルフ大会の再開

(3) 第2回地域セミナーの開催

地域住民への車両貸し出し事業は100件（前年度115件）となった。福祉車両の情報が地域住民に浸透してきたこともあり、毎年100件を超える利用が定着してきた。過疎化が含む金山町での貴重な交通手段として、多くの方に利用して頂けるように対応したい。

また、グラウンドゴルフ大会は、初めて平日に行ったが、地域の方々に大変喜ばれ、親睦を深める良い機会となった。

I 特別養護老人ホームかねやまホーム 事業計画

《基本事項》

入所者はもちろんご家族からも安心と信頼を感じていただけるような施設となることを目指し、職員一人一人がご利用者に寄り添いながら、『その人』を知り、『その人らしさ』を感じて、やさしさと心温まるサービスを提供する。

このため、法人の目標を基本に施設、各部署、個人が目標を定め、目標の達成を目指して協力しながら業務にあたる。

1. 業務への意識レベルの向上

- ①日々の業務、委員会活動など自分の役割に責任感を持って最後まで全うする。
- ②できない理由を考えるのではなく、どうしたら上手くいくか、達成できるかを考え、「創意工夫」と「前向きな発想」を心がける。
- ③他人事ではなく、常に「我が事」としての意識を持って日々の業務に取り組む。
- ④家族の想いをくみ取った配慮ある対応と連絡を継続する。
特に、新規入所となられた方や、退院された方のご家族は、状態を心配されているため、施設でのご様子をきちんとお伝えする。

2. 安全への取組み

【感染】

新型コロナウイルスについては、これまで通り全職員、ご家族の協力を得ながら法人の「コロナ感染防止マニュアル」に基づき、感染防止に日々継続して取り組み、感染のない安心な生活環境を目指す。

施設内で感染が発症すると、隔離・待機の期間が長くなり、職員・ご利用者共に負担が大きくなることから、施設内の感染をゼロにすることができるよう、職員個々が意識を高く持ち、情報を共有しながら、感染予防を行う。

また、その他の感染症についても、看護部門、介護部門がコミュニケーションを密にし、適時、適正に対応する。

【事故の防止】

- (1)安全のためのルールを守り、職員の安易な判断で起こる事故の防止
- (2)転倒アセスメントシートの有効活用により転倒事故を防ぐ
- (3)転倒事故後の状態観察と的確な判断および家族側に立った容態の適時連絡
- (4)インシデントレポートを事故予防に生かしていく
- (5)指差呼称が業務の中で必要な時に行われているか再確認

3. 入所者の人権の尊重と接遇力の向上

ご利用者やご家族からのご意見、ご要望をきちんと受け止め、改善が必要な点については、見直しと実行をスピーディに行うことで、ご利用者、ご家族との信頼関係を深めていく。

また、役職者が自分の部署の現状をよく把握し、積極的に指導を行い、部下の気づきとご利用者を尊重する風土を作り上げていくことで全体の接遇レベルの向上を図っていく。

4. 入所者の健康管理と職員対応の意識向上

入所者の重度化にともない、入所後に体調を崩される方が多くなってきていることから、今まで以上に看護・介護職員が情報を共有することで、嘱託医への的確な報告によりスピーディに指示を仰ぎ、早めの対応を行う。

看取りとなられる方が、年々増えてきており、適切な時期でのご家族への説明を行うことで、人生の最終段階におけるケアを進め、穏やかな最期を迎えることができるように取り組む。

また、今まで重点的に取り組んできた口腔ケアは、肺炎予防のため健康サポート委員会口腔部門を中心に、重度のご利用者の全身の拘縮予防については、生活ケア委員会介護技術部門で継続して取り組む。

5. 介護技術習得への取り組みと個別ケアの継続

昨年度より、強化してきた、楽技介護術の習得が、思うように進んでいないことから、今年度は役職者を中心に、「介護技術講習会」の開催など、強い意識を持って取り組む。

また、コロナ禍の中で、日々の生活への刺激となるような行事の運営企画や、ご利用者・ご家族の精神的不安及び負担を軽減できるような個々の取り組みを行う。

- ① 定期的なアドバイザーによる講習会の継続
- ② 介護技術施設内講習会の開催
- ③ お楽しみプロジェクトの継続

《重点事項》

【総務・生活相談部門】

1. 介護報酬改定に伴う安定した収入の確保及び各種経費削減の継続

① 介護報酬改定により、各部署・担当者との情報共有と確認を密に行い、現加算及び新規加算の適正取得を行う。また各事業所の目標利用率の維持で安定した収入を確保する。

他部署・担当者との情報共有、確認を行い加算等の申請を適正に行えた。年間の稼働率は、施設入所78.25人／目標77.5人、短期入所18.84人／目標19.0人、かねやまデイ15.48人／目標17.0人、よこたデイ7.98人／目標8.0人で、施設入所以外は目標達成に至らなかった。

施設入所については、退所から新規入所者が入るまでの空き日数平均を、9.04日と以前より短縮することができた。今後も1週間以内を目指し進めていきたい。

デイサービスの実績達成に至らなかった原因としては、8月にかねやまデイサービスで新型コロナウイルス感染症があったことや、冬期間の大雪による利用者減少が主な要因である。次年度は、新規利用者開拓、冬期間の利用継続等、他部署と連携を行い利用者確保に努めたい。

② 光熱水費、物品購入において、経費削減の意識を高く持ち、継続徹底を行う。また食材料費についても、担当者と連携し、経費削減と質を落とさない美味しい食事提供を行う。

施設全体で光熱水費の節減を行った。電気に関してはLED照明器具への取替え、昼休み等の照明消灯、無駄な点灯があれば消灯を行い、物価高騰が継続していたがR5年度と比較して年間450千円増に抑えることができた。しかし、灯油代は値上げの影響を受け1,600千円の支出増となった。今後も継続して経費削減に取り組んでいきたい。

③ 建物・設備機器等の老朽化に伴い、経過年数による不具合発生頻度が増えているため、軽微段階での修繕対応、今後の使用継続を踏まえた更新時等の計画を図りながら、安定した稼働継続の確保を行う。

増床棟改修工事7, 150千円、経年劣化等による床暖房・給湯・給水関係配管の漏水による各種修繕、エアコン5台・灯油液面計・119火災通報装置等取替えで6, 600千円の支出があった。

建設から35年、30年、13年が経過し、経年劣化等による修繕が増えて来るので業者と相談連携を行い、計画的で支出軽減できる取り組みを行っていききたい。

④ 物品購入・修繕・研修受講等、各種補助金・助成金の情報収集と申請・有効活用を積極的に行う。

補助金申請を行い、令和6年1月のコロナ感染対応補助金1, 369千円、エアコン取替え工事800千円、物価高騰対策支援事業補助金1, 830円補助金収入があった。研修関係の補助金申請も下半期に行い、250千円の収入が確保できた。

次年度も各種補助金の情報収集・申請を継続的に行い、収入確保につなげたい。

2. 事業の安定した継続、質の高いサービスの提供

① BCP（事業継続計画）の適時活用と補足見直しを行いながら、職員への周知・訓練を通して防災や感染症への迅速な対策対応で、安定した事業継続及びご利用者の安心安全な生活の提供に取り組む。

県の指導による業務継続化計画（BCP）に係る感染症に関する研修会を2回、土砂災害等の災害発生を想定した訓練を実施した。今後も、国・県・町から情報等を収集しながら、BCP及び防災計画の検討見直しを行い、あらゆる災害に迅速かつ的確に対応できる体制整備を図っていききたい。

② 業務改善に取り組み、多様化する業務に対して迅速かつ的確な対応を図る。報・連・相を確実にを行うと共に、各部署と連携、協働を図りながら質の高いサービス提供を行う。

日々の業務において、報告・連絡・相談の重要性、また、改善が必要な点等が無いか意識・気づきを持ち改善を行い、多様化する業務に迅速・的確に対応できるよう取り組んだ。また、整理整頓に心がけ、書類の管理・紛失ゼロへ徹底して取り組んだ。

③ 待機上位者の状態把握はもちろん、介護度や認知度の確認や、先を予測し「創意工夫」と「前向きな発想」で空床日数を減らしていく。老健相談員や、病院ワーカーとの連携や、情報交換を心がけていく。

老健相談員、他市町村ケアマネ等へ待機者状況を伝えていくことにより、他市町村からの新規申し込み増に繋がった。また、空床のショートステイでの活用や、退院お迎えのスムーズな調整により空きを減らす工夫をした。

④ 短期ご利用者に関しては、新規ご利用者の開拓に加え、緊急利用等ご利用者やご家族の意向に沿った柔軟な対応を行い稼働率を確保する。

2月・3月と緊急短期入所受入3名のご利用で稼働率の確保に繋がったが、体調不良などキャンセルが続き、年間を通しての稼働率は目標値を下回った。今後ご利用者の状況を把握しながら、お部屋の調整、柔軟な緊急入所受入を行い、ケアマネと連携を取りながら月毎の稼働率の安定確保に努めたい。

- ⑤ 地域に支えられ運営できていることを忘れずに、これからも車両貸出や事業の継続と、グラウンドゴルフ大会の開催等の活動を通して、地域住民との交流や貢献に取り組んで行く。

車両の貸出については、定期的な車両貸し出し（受診）に加え、担当ケアマネを通しての相談（主に受診や入退院）も追加であり、利用に繋がっている。

第7回となったグラウンドゴルフ大会については、役員の方々をはじめ多くの皆様にご協力いただき、たくさんの方に参加していただくことができた。また、ご利用者が楽しんで応援される姿もみられた。

3. 安全への取り組みと充実した生活の提供

- ① 新型コロナウイルスを始め、様々な感染症に対し、施設内へ持ち込むことがないよう、施設職員としてのルールを継続して守っていく。面会や外出に関して、感染予防対策をしながら実施し、慰問等も再開していく。

感染症対策の取り組み・ルールの厳守、職員個々に感染しない、持ち込まない対応取り組みを行ったが、4月・8月・1月にコロナ感染が発生した。職員の感染からがほとんどで、改めて感染対策の難しさも実感させられた。

- ② 事故防止に関しては、転倒事故を減らすことができるよう「転倒要因アセスメントシート」を活用し、多角的な視点で原因を探り再発防止につなげていく。また入所契約時にはご家族への丁寧な説明を心がけ、リスク面へのご理解をいただくと共に、日頃の信頼関係構築に努める。

新規契約時に施設でのリスクについて丁寧に説明しご理解をいただいている。また、転倒アセスメントシートを活用した転倒対策と介護現場でのその見直しに努め少しでもリスクを下げられるよう心掛けた。また、転倒されることがあっても大きなケガを予防できるよう、ご利用者に合わせた居室環境の見直しや、プロテクターパンツの使用も進めている。事故後の検討では、事故が起きた可能性をあらゆる角度から考えることで、次につなげることができるようになってきた。併せて職員個々の成長にもつながっていると思われる。

- ③ 他職種と協働して身体的、医療的、リスク的な側面を総合して思案し、計画書に反映させていく。ご利用者の「できること」に目を向けた、具体的な日常生活リハビリの実践を道しるべとして示し、できたことを一緒に喜べるよう取り組んでいく。

ご利用者の日常に関して総合的な計画書の作成に努めた。日常リハビリについては、職員がご利用者に動作の意識を持ってもらえるようなお声掛けを実施していくことで、意欲の向上が見えたと聞いている。またその声掛けがご利用者にとってこちらの準備や、自分にむけられた関心と親身な励ましの確認になり、職員と一緒に取り組むやりがいになっている。

- ④ 体調を崩された際も、入退院や受診時の病院とのやり取り、運転手の手配等の迅速な対応を行う。また入院後も定期的に病院側、ご家族と連絡を取り合い、状況の把握と回復後のスムーズな退院につなげる。

医務室からの病院への連絡と並行し、車両や運転手の手配、保険証等の準備を行い、スムーズな受診に繋がっている。

入院後は約1週間毎を目安とし病院・ご家族へ連絡を入れ、状態の確認に努めた。退院許可がでた後は、最短で退院お迎えに行けるよう調整した。

4. 人材育成と接遇力の向上

① これからも「ご利用者を尊重する風土」を大切に、接遇力の向上が人権擁護に深く結びつくことを意識し、ご利用者やご家族の声に耳を傾け、スピーディに対応していくことを心がける。また不適切と思われる言動については、お互いに指摘し合いながら、気づきを改善につなげていく。

今年度はスピーチロックについて全職員へのアンケートを実施し、意識付けを行った。他者からの指摘や自分を客観的に見つめ直す作業で気付くことが出来た反省点を修正につなげる事が出来た。時間と共に薄れてしまう事のない様、間接的な意見も書けるようなアンケートを実施しながら、職員同士がお互いに指摘し合える機会をつくる事ができた。

② Web研修を積極的に活用し、個々のスキルアップに取り組む。また実践的な介護技術の向上を図るために、外部講師による研修を開催する。

今年度も「お茶の水ケアサービス学院」、「安全な介護」のネット配信研修を中心に、各部署の定例会や個人での受講を行った。
研修を受けた職員が、全体会議や報告書にて受講内容を報告して関連部署にて情報共有を図った。改善事項の提出や、その後の検証を行うことで、学んだ内容を業務や実践に活かせるよう取り組み、個々のスキルアップを図った。

③ 介護技術の浸透と強化を図り、各職員が自信を持って技術に取り組むことができる体制を整える。重度のご利用者に対しても、拘縮予防の取り組みの日常化を進め、その重要性の理解を働きかけていく。

介護技術の向上に向けて、技術委員会の職員が中心となり講習会の実施に取り組んだ。業務時間の隙間時間なども上手に使いながら職員個々の苦手なポイントの確認や基本的技術のおさらい等有意義な時間となるよう声を掛けあった。特定技能1号生等も自信をもって日常介護にあたる事が出来るような指導を慎重に行なった。拘縮予防の取り組みも、職員個々が意味を理解し、実行に移す事が出来るように継続して呼びかけ、成果の実感が出来た。

④ 新人職員、技能実習生や特定技能生が、段階にあった知識や技術を学びながら、やりがいを感じて元気に笑顔で仕事に取り組んでいけるよう最大限サポートしていく。

新任職員については、新人研修をはじめチューター制度を活用しながら丁寧に指導を行った。特定技能1号生については、2月にインドネシアから2名を受け入れた。9月から就業している2名とともに、介護について積極的に学び、業務の習得にむけて取り組んでいる。腰痛予防ベルト購入相談が上がった際には、業者との連絡調整を行いスムーズな購入に繋げることができた。今後もいろいろな形でのサポートを行っていきたい。

⑤ 安定したサービスの提供が継続できるよう、あらゆるルートを活用して採用につなげ、職員の充足をはかる。

ハローワークや人材派遣会社の活用、また知人からの紹介を通しての採用活動を継続して行った。採用につながり仕事に励んでいただける職員がいる一方で、退職者も続き、常に採用活動を行う状況があった。今後も新規採用に向けて取り組みながら、魅力ある施設作りや、働きがいのある職場の風土構築を図りたい。

【看護部門】

1. ご利用者の健康管理

- ① ご利用者の良い健康状態が維持出来るよう日々の状態観察を行うと共に、各職種と情報を共有し必要に応じて嘱託医への的確に報告し指示を仰ぎ、迅速で適切な対応に努める。
- ② ご利用者の嚥下状況や食事、水分量を把握し、ご利用者に合った食事の提供により、少しでも口からの摂取が継続出来るよう他職種と協力して取り組む。また、統一した口腔ケアの継続により誤嚥性肺炎や疾病の予防に努める。

検温での状態観察、月1回の体重測定で増減確認を行った。体重が減るご利用者も見られた為、嘱託医、栄養士と相談し食事形態の見直しや高カロリーの栄養剤、栄養補助食品を提供してもらい体力の維持と健康管理に努めた。また、介護職員と情報を共有しながら具合が悪い時は早めに嘱託医に連絡し指示を仰ぎ、迅速な対応を心掛けた。

口腔ケアはケアの方法や利用者との関わり方に力を入れて取り組み、3月には担当が中心となり研修を実施した。

2. 看取りへの取り組み

- ① 看取りになるご利用者が増えているので、嘱託医に状態を報告し適切な時期にご家族へ説明が行えるようにする。
- ② 穏やかな最期を迎える事が出来るよう各部署と連携し、ご利用者、ご家族に寄り添ったケアに取り組んでいく。

食事量や飲み込みが悪い等の情報を回診時嘱託医に報告し、嘱託医から、ご家族への説明を行った。看取りの面会は居室まで入ってもらえる為、亡くなるまでの期間ご家族がご利用者とどのように関わりを持って最期を迎えてもらえるか考えながら取り組んだ。

3. 安全への取り組み

- ① 新型コロナウイルス感染防止策と健康管理を徹底し、ルールに基づいて日々対策に取り組み発症を防止する。その他の感染症についても介護職員と連携し適正に対応していく。
- ② 的確な情報収集によりマニュアルを随時見直し周知する。また、職員1人1人が感染に対する意識と判断力を高く持ち予防に努める。
- ③ 感染発症時は各部署と協力し早期に的確な対応を行い拡大防止に努める。
- ④ 薬の入れ間違いや誤薬事故を防止する為、決められたルールをきちんと守り実践する。インシデントレポートも活用し情報の共有と再発防止に努める。

4月、8月、1月の3回新型コロナの感染がみられた。4月はそよかぜ棟とほのぼの棟での感染となった為ご利用者31名という今までにない大きな感染で長期化してしまっ。終息後に反省点を出し合いマニュアルを見直し、8月は反省を活かした対応が出来ご利用者7名、1月はご利用者1名という最小限の感染で終息出来た。今後もルールに基づいた感染対策や健康管理に継続して取り組み、次年度は感染ゼロを目指していきたい。

薬に関しては確認不足によるインシデントが見られたので、ダブルチェックによる確認を対策にたて再発防止に取り組んだ。

4. 職員の対応力と意識レベルの向上

- ① ご利用者の人権を尊重し配慮と敬意を忘れず丁寧に対応する。
- ② ご利用者、ご家族からの意見、要望をきちんと受け止め、改善点は見直し実践していく。
- ③ ご家族の想いを汲み取った配慮ある対応と連絡を心掛け、体調や施設での様子を伝えていく事で信頼関係を築いていく。
- ④ 各委員会や担当の役割に責任を持ち工夫と前向きな発想で日々の業務に取り組む。
- ⑤ 物品の在庫管理や節電、節水を意識し、消耗品、光熱水費等の経費が削減出来るよう継続して取り組む。

職員一人ひとりがご利用者、ご家族に優しさと敬意を持って丁寧に対応するよう心掛けた。ご家族への連絡時も言葉遣いに注意し、安心感を与えられるような伝え方に努めた。

上半期は職員の退職に伴い職員数の少ない期間もあったが、業務内容を大きく見直し、介護職員に協力してもらい優先順位を考えながら業務にあたった。下半期は体制も整いスムーズに業務がまわるようになったが、定例会で随時業務の見直しを行い効率的な業務が出来るよう取り組んだ。

経費削減については、物品の在庫管理、節電、節水等各自が意識して取り組んだ。

【 養 護 部 門 】

I ひだまり・こもれび棟

1. ご利用者一人一人の「その人らしさ」の追求

- ① ご利用者との関係性を構築する中で、ニーズを理解し生活リズムを個人ごとに把握する。日々の生活の過ごしやすさや、レクリエーションの強化することでQOL向上を行う。
- ② ご利用者の想いを本人やご家族から抽出し、叶えていくためのサポートをする。「プロジェクト」を通して、ご家族や他職員にも叶えた想いを共有し、次に繋がるイベントとして継続していく。
- ③ ご利用者に対する接遇の見直しを行い、より温かみのある空間と時間を作ることで、穏やかに生活が送れるようにする。
- ④ ご家族への連絡を定期的に行い、主の状態の変化や参加しているイベントなどを把握してもらうことで信頼を築いていく。

各担当職員がご利用者との関係性をより深く築くことで一人ひとりの想いを抽出し活動につなげることができた。各職員が外出支援等の計画を立案し、ご家族に協力して頂きながら、ご利用者に合った外出を実施することが出来た。

食堂の改修工事の事前シミュレーションとして、食堂の環境整備を実施し、職員全員が意見を出し合い、ご利用者が安全に過ごしやすくなるような空間作りを行った。改修後は、一つに集まる事でご利用者の方々と職員が今まで以上にコミュニケーションが高まり、笑顔で安全に生活して頂くことが出来た。広い空間では行事など大いに楽しむことが出来た。

ご家族への定期的な電話連絡以外に、広報誌と一緒にご利用者の写真を送る事で、より具体的に施設での様子を知ってもらうことができた。

2. 健康の維持と安全な環境の整備

- ① 看護との連携をより密接・迅速に行う為に、職員間とのコミュニケーションを取りやすい環境を作る。介護看護両面からの意見を統合してケアしていくことで、ご利用者の健康を保てるようにする。
- ② 職員の体調管理や、施設内の換気・消毒等の感染対策を継続しつつ、万が一感染症が発症した際は対応を迅速に行い、感染が拡大しないよう努める。
- ③ 離床時間が少ないご利用者に対する拘縮予防策を実施し、褥瘡や廃用性症候群を未然に防ぐ。口腔ケアの強化と摂食嚥下の観察を行うことで誤嚥性肺炎を防止する。入浴だけでなく、洗剤を使用した陰部洗浄の併用を継続し、尿路感染を防止する。
- ④ インシデントレポートの共有を行い、危険な場所や行為を事前に把握し、事故の発生を未然に防ぐ。また発生してしまった際も、最小限の被害になるよう環境の整備を行う。

看護職員とコミュニケーションを密に取り合い、ご利用者の情報共有を行った。状態の変化に気付く事で、疾患等の発症の際に迅速に対応できた。

職員や職員の家族が感染症を発症した際には、速やかに各感染対策を行う事でご利用者への感染を防ぐことができた。

職員一人ひとりが褥瘡の予防策を理解し、職員全体で徹底したことで未然に防ぐことが出来た。

また、委員が中心になって口腔ケアの意識を高められるよう定例会にて口腔ケアの研修を行い、職員が学べる機会を設けたことで、誤嚥性肺炎の防止に努めることができた。

インシデントレポートを活用し、事故の発生を未然に防ぐ努力を行ったが、3件の骨折事故が発生してしまった。事故後、骨折状況やご利用者の状態に合わせた環境作りを行い再発防止に努め、寝たきりにならないように離床などのケアを行った。

3. 介護職員の育成強化

- ① 10年後を見据えた職員育成を行う為、個人ごとのキャリアアッププランの作成を行う。各職員の介護技術・接客能力・摂食嚥下の知識の把握をし、不足部分の教育を実施する。
- ② 各職員が常に業務改善の意識を持って業務を行い、より働きやすい職場環境を全員で作っていく。
- ③ 委員会活動で必要な知識を研修等で習得していく。また、自分の委員会だけでなく、各委員会活動にも積極的に参加することで、各活動をより活性化させていく。得に、介護技術に関しては、委員と役職者を中心に、定期的な勉強会を実施し、全員が技術の習得を目指す。

個人ごとの目標設定について意識を高く持つよう話をし、棟全体のレベル上限値上昇を図った。目標達成状況を確認し、進捗の悪い職員に対しては役職者がアドバイスやフォローを行った。

職員一人ひとりが、自分の職場をより良くするために小さなことでも意見を出し合い実施し、さらに良い案がないか考え、職場環境を良好にできるよう取り組んだ。

委員会活動では、定例会やノートでの内容を周知し、他職員が協力しやすい環境を作り、活発な活動が出来た。介護技術講習会の実施により、介護技術マイスターの育成を行うとともに、技術を苦手とする職員にも使いやすい技術の教育を実施した。

Ⅱ そよかぜ棟

1. ご利用者に寄り添い敬意を持って処遇にあたる

- ① ご利用者の人権を尊重し、穏やかで安心した生活が送れるよう、心を込めて親切丁寧なケアを提供する。
- ② ご利用者やご家族の想いが実現できるよう、日頃からコミュニケーションを図り、率直なご意見やご要望を頂けるように取り組む。
- ③ ご利用者の生活の様子を、定期的にご家族にお知らせする。また、配慮ある対応と連絡を心がけ、ご家族との信頼関係を構築する。

ご利用者の希望を聞き、施設での生活が安全で穏やかに過ごせる様、丁寧な対応を心がけた。ご利用者個々に合わせ、自宅外出やドライブ、散歩などの取り組みを行った。冬期間は施設の中で行われる季節の行事に参加し、楽しく生活できるよう工夫しながら実施した。

また、ご家族には少しでも安心して頂ける様、施設での活動の様子について、面会時や定期的な電話連絡、広報誌などでお知らせした。

ご利用者の体調面では、看護師と連携を取りながら、タイムリーな連絡を心掛けた。施設で最期を迎える「看取り」のご利用者に対しては、本人やご家族の気持ちに寄り添い、心を込めて丁寧に対応する事が出来た。

2. 安全な生活環境を整える

- ① 新型コロナウイルスや、その他の感染症の防止策を徹底し、職員自ら健康管理の強化に努め、ご利用者の健康状態を日々観察する。
- ② 日常的に発生する「ヒヤリ・ハット」を予見する力を身につける。職員一人一人が決められたルールを守り、骨折や誤薬などの重大な事故にならないよう、インシデントレポートを活用し、決定事項の徹底と情報共有に努める。
- ③ 口腔ケアの重要性を理解し、他職種との連携を図り、病気の予防に努める。
- ④ 介助中の事故が起こらないよう、介護技術の習得と向上に努める。また、ご利用者個々の状態に合わせた、個別ケアの取り組みを継続する。技術委員と協力し、定期的な「介護技術講習会」の開催を目指す。

棟としては、年度始めにコロナ発症があり、約1ヶ月近く感染対応に追われた。その後は、手洗い・消毒・体調管理などの予防対策をしっかりと実施し、施設の感染対策のルールを徹底した事で、大きな感染症の流行は無かった。

安全面では、職員一人ひとりが決められたルールや手順が守られなかった事で、ご利用者の介助中に起こった骨折事故、転倒してケガをした事故、指示薬の与薬対応のミスによる服薬事故が発生した。再発防止策を厳守し、安全に慎重に行動しなければならない事を、定例会で話しあった。

介護技術の向上の取り組みとして、技術委員を中心に、RX組来所時に指導された事を伝達したり、介助のやり方がわからない、不安な点を聞く等、各職員が意欲的に進めることが出来た。集団で又は個別に講習会を開催するなど、柔軟に実施出来た。

3. 棟内の活動を円滑にする

- ① 棟の業務・各委員会・系の役割に責任を持って取り組む。「報告」「連絡」「相談」を徹底すると共に、職員間のコミュニケーションを図りチームワークを高める。
- ② ご利用者の希望や体調に合わせた外出や、おやつ作り・誕生会などのお楽しみの取り組みを継続する。
- ③ 業務の優先順位を考え、人的・物的資源を有効に活用し、随時見直しや工夫を行う。また、光熱水費を意識し、無駄のないよう取り組む。

職員一人ひとりが与えられた仕事に責任を持って取り組んだ。チームワーク向上のため、「報告」「連絡」「相談」を徹底し、進捗状況を確認しながら進めることが出来た。

今年度もおやつ作り・誕生会などのお楽しみの取り組みを、計画的に継続する事が出来たが、様々な物価高騰により、材料の選択や回数等を検討する必要があると感じた。

また、毎日の予定に合わせて、人員配置の工夫をしながら、業務の見直しを進めてきた。今後も優先順位を考えながら、ご利用者の希望や要望に出来るだけ対応していきたい。

III ほのぼの棟

1. ご利用者のご家族の「想い」に気付き「その想い」に応えた介護をする事で、ご利用者・ご家族との信頼関係を深める。

- ① 職員の接遇レベルを向上し、ご利用者の尊厳を守れる対応に努める。ご利用者とご家族の立場に立った「思いやり」のある対応と、そのご利用者を知る事で「その人がその人らしく」生活できる個別ケアとサービスの提供をする。
- ② ご利用者の日々の生活に寄り添い健康状態の把握に努め、適時、また、継続的にご家族に報告にする。また、新規入所後や看取り・入退院後・体調不良時等は他職種と連携しタイムリーな連絡でご家族の安心を図る。

上半期は「ご利用者を知る事」とその想いに気付き寄り添った個別対応に取り組んだ。コロナ感染対応中はもちろん普段の生活のなかでもご家族が不安にならないように電話連絡をこまめに行った。普段からも広報誌や棟のお便りで棟内の活動・行事を写真で見て伝える事に努めた。看取りのご利用者に関しては「最期までその人らしく家族との大切な時間を過ごして頂ける様」に、配慮した対応ができご利用者を見送ることができた。

2. ご利用者が「安心で安全」に生活できる環境を作る

- ① 他職種との連携と情報の共有を実施し、ご利用者の健康的な生活を維持する。食事摂取量の観察や口腔ケアの技術の習得で「誤嚥や肺炎」を予防する。寝たきりのご利用者への対応の仕方も学び、拘縮や褥瘡の予防と状態悪化の防止に努める。ご利用者の体調不良による長期入院の回避と空床日数減に繋げる。
- ② 新型コロナウイルスは5類になったが、今まで以上に感染予防を意識した行動で施設に感染を持ち込まない。
また、感染発症後も迅速な対応と感染拡大防止に努める。
- ③ インシデントレポートとアセスメントシートを活用し、誤薬・転倒事故と職員個人の判断ミスによる事故を防ぐ。起きてしまった事故は、同じ事を繰り返さない様に「検討・対策」をして再発の防止に繋げる。

新型コロナウイルス感染症が発生した際には、職員の迅速な対応で感染拡大を防ぐことができた。ご利用者毎の「褥瘡・拘縮・口腔ケア」については、看護職員と情報共有しそれぞれの状態に合わせた「個別対応」ができた。ご利用者の骨折事故があった為、今後はご利用者の状態をみながら骨折しやすい身体になっている事を意識した対応を心掛けた。今年度もご利用者の体調や状態の変化について看護師と連携をとりながら、生活の中での安全な介助方法に取り組んでいく。

3. 職員のスキルアップと職場環境を改善し向上に努める

- ① 各職員が委員会や係りの目的や役割を理解し「自分が求められている事・やるべき事」に責任を持って取り組む。
- ② 介護技術委員と役職者が中心となり介護技術を習得する。棟内で技術の確認と伝達を行い、職員とご利用者が共に「楽な介護」を目指し努力する。
- ③ 定期的に棟内の整理整頓をする。物品備品の在庫管理・節電などに心がけ光熱水費や経費の削減を継続する。
- ④ 各職員の業務量・勤務状況に偏りが出ない様に時間を上手く使って、チームワークで取り組む。各職員の健康状態・家庭環境・通勤事情等の希望に応えた労働環境にし、安全でストレスなく働ける環境づくりに努める。
- ⑤ 特定技能1号生は職員と同じ業務をこなせるまで成長できた。これからも外国人労働者が職場に定着してもらえる様にコミュニケーションを取りながら技術指導をしていく。

異動してきた職員・他社から中途採用された職員など、新しく棟に入職した職員の「新鮮な目」で見た貴重な意見を取り入れ、棟内の業務マニュアルの見直し設備などの業務改善に取り組んだ。新人職員と特定技能1号生の指導はチューターを中心に協力しながら取り組み、順調に指導が進み夜勤業務もできるようになった。

【 栄 養 部 門 】

1. 食べる事に楽しみが持てるよう、変化ある食を提供する

- ① 各種行事食や季節を感じて頂ける献立、おやつ等を通し、コミュニケーションを取る事が出来る場所になるよう、食に楽しみを持っていただけるよう工夫して行く。
- ② 盛り付けや配膳に対し、忙しくても作業とならず、見た目良く盛り付けを行うなど、常に美味しい食事作りを心がける。

各種行事は大事にし、行事食は献立を変更しながらも例年通りに実施してきた。ご利用者さまにも季節を感じていただけるよう、旬の食材（山菜、新米など）は目で見て喜んでいただけるように食材に触れていただくなどしてきた。
盛り付けについても、声を掛け合う事でお互いが意識し、きれいに見た目よくを心がけることができた。

2. 良好な健康状態を維持できるよう、食の繋がりを大切にする

- ① ご利用者もますます高齢となり、食事摂取量の低下や、吸収が悪くなっているご利用者が増えており、低栄養や体重減少が見られる方が増加している。入所者の食事摂取状況を担当職員とも相談し、良好な健康状態が維持できるよう努めて行く。
- ② ご利用者の口腔内の状態に合わせた食事形態の変更については、歯科医師の助言をもとに多職種と協議し迅速に対応していく。

健康サポート委員による口腔ケアについての指導を各棟で行うなど、口腔ケアに対する意識の向上を図ることが出来ている。義歯の不具合も棟の職員対応で受診するなど、迅速に対応することができているようである。

3. 衛生管理に十分注意し、安全な食事を提供する

- ① 厨房職員の衛生管理に対する意識の統一を図り、全員で協力して安全な食事の提供が出来るよう取り組む。納品時の検品、品温チェックをしっかりと行う。常に衛生面を考えた動きが出来るよう取り組む。
- ② 緊急時（災害、感染症、食中毒）でも、食事の提供が円滑に進められるよう必要物品（食材、使い捨て食器等）を備蓄し、非常時を想定した食事提供の訓練を実施すると共に、緊急時に備え、非常食の保管場所や提供方法を全職員に周知する。

感染症の発症があったが、厨房では報告を受け迅速に感染症対策の食事提供をすることができた。対策の備品については、使用した際には次回に備えて補充するなど、管理もしっかり行えた。

4. 食費に係る費用について適正な使用の継続を行いたい

- ① 原材料費の高騰及び、光熱水費や燃料代の高騰が続いており、1食単価を適正におさえる事が出来るようあらゆる面から節約に取り組む。
- ② 食材のみならず、光熱水費も高騰しているため、納入業者を固定せず見積りを取りながら、安価で品質の良い食材を使用する。在庫の報告や、使用状況をしっかりと連絡し合う事で無駄を無くし有効に活用していく。

食材の原材料費の物価高騰と、光熱水費の高騰が続いており、納品業者の変更や節約、各種行事のおやつ作りの省力化など行って来た。結果として給食単価は大きな増加は無かったが、光熱水費については単価も上がっており減額にはならなかった。